

病とともに生きる

火1 谷本 真理子先生

キーワード: 病 ケア 生きる 体験 患者理解

←実際に利用した資料にはチェックをしましょう。
★のついている図書は、授業期間中は本館N棟2階授業資料ナビコーナーにあります。

病と健康に関する基本概念

- 病いの語り：慢性の病いをめぐる臨床人類学 / アーサー・クラインマン著；江口重幸, 五木田紳, 上野豪志訳 誠信書房 1996
→ 慢性病の患者、家族、臨床家が病いについて語る声を紹介。臨床人類学の概念と方法を知る必読書。著者はこの分野の草分け的研究者。
★【本館L棟3階A 493.1/YAM】
- 病いの意味：看護と患者理解のための現象学 / S.Kay Toombs著；永見勇訳 日本看護協会出版会 2001
→ 医師と患者の間には、病気のあり方に対する基本的な理解の相違が横たわっている。これを心理学的現象学で分析した本。
★【本館L棟3階A 490.145/YAM】
- 生涯発達心理学：エリクソンによる人間の一生とその可能性 / バーバラ M.ニューマン, フィリップR.ニューマン著；福富護訳 新版 川島書店 1988
→ 胎児期から成人後期(老年)に至る心理社会的発達の諸相を10の人生段階に分け、各段階での〈発達課題〉〈心理社会的危機〉〈研究テーマ〉〈応用トピックス〉を論じた、発達心理学の基本書です。
★【本館L棟2階A 143/N551】
- WHO憲章 【http://www.who.int/governance/eb/who_constitution_en.pdf】

文化に依存する病と健康

- 健康という幻想：医学の生物学的変化 / ルネ・デュボス著；田多井吉之介訳 紀伊国屋書店 1977
→ 人間と健康の間の葛藤の歴史を、微生物・環境・文明等の視点で描いたエッセイ。著者は微生物学者でありピュリッツァー賞を受賞した文明批評家でもある。
★【本館L棟3階A 490.4/D817】
- 医療の比較文化論：その原理と倫理を求めて / 久間圭子著 世界思想社 2003
→ 日本に生きる我々が求める医療を実現するには、政治・経済・歴史をも包括する文化的視点が必要。アメリカ医療改革を経験した著者が、医療の現場経験と市民としての立場、帰国後の文化ギャップをふくめ、国際的視点から新たな展望を示す。
★【本館L棟3階A 498.02/IRY】
- 医療人類学のレッスン：病いをめぐる文化を探る / 池田光穂, 奥野克巳共編 学陽書房 2007
→ 医療人類学(=健康と病気を対象にした人類学的研究)の成り立ちや可能性および具体的なテーマを、12のレッスンに凝縮して紹介。多様なフィールドワークの中から興味のあるテーマを見つけて、さらに深めていくことが出来る本。
★【本館L棟3階A 498/IRY】

がんとともに生きる

- 厚生労働省 がん対策情報 【<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan.html>】
- 国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス 【<http://ganjoho.jp/public/index.html>】
- がんサポート情報センター 【<http://www.gsic.jp/for/index.html>】
- ディベックス・ジャパン 健康と病いの語り 【<http://www.dipex-j.org/>】

糖尿病とともに生きる

- わたし糖尿病なの / 南昌江, 南加都子著 医歯薬出版株式会社 1998
→ 14歳で1型糖尿病と診断され、その後「患者さんの心の痛みがわかる医者」を目指して糖尿病専門医になった南昌江氏と、見守ってきた母加都子さんのエッセイ。 ★【本館L棟3階A 493.12/WAT】
- (社)日本糖尿病協会ホームページ 【 <http://www.nittokyo.or.jp/> 】

生活習慣と循環器疾患

- 日本循環器学会 循環器病の診断と治療に関するガイドライン 【 <http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm> 】

HOTとともに生きる

- COPD情報サイト GOLD日本委員会 【 <http://www.gold-jac.jp/> 】
- 在宅酸素療法(HOT)【自宅などで酸素を吸入しながら生活する治療法】(健康長寿ネット、公益財団法人長寿科学振興財団) 【 <http://www.tyojyu.or.jp/hp/page000000800/hpg000000746.htm> 】

授業資料ナビゲータ(PathFinder)入口 (<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/pathfinder/>)
作成:千葉大学附属図書館